

プレゼン：3月10日 A会場 10:00～ 計画と実績の連携とスピード経営

対象業務の現状と取組み

タブレットとカメラを使って画像情報からモノの位置管理を行う仕組みを構築

変種変量生産で生じる課題として、工場の構内を流れる部材の種類・量が毎月変動する現状があります。大物部材などは、置き場所を固定化することが難しいため、その時々状況に応じて現場裁量で置場(工程間の中間倉庫や仮置き場)を決めています。後工程はモノ探しに奔走しなければなりません。フリーロケーションの位置管理システムは、いずれも高コストです。通信インフラの構築や大量のセンサ配備、さらに運用に管理工数が掛かることに加えて仮置き場など、突発的・暫定的な倉庫の拡張には対応できません。前工程完成品の保管場所を画像情報で記録してこれを後工程と共有する仕組みを構築します。

実証実験・業務シナリオ (TO-BE)・成果

実証実験を行って実際のデータやその内容の検証を通じて画像情報を利用したモノの位置情報管理システムを構築していく計画です。写真を撮影する手間をどのように省くのか、似たような風景の場所と個別に認識できるような工夫などを検討し実用化につながる取組みを行います。



ファシリテータ：ヤマザキマザック 石田修一

エディタ：日本精工 帆井彰

メンバー：

日本精工 加澤靖、富士電機 高橋雄一

十和田オーディオ 猪股歩、コマツ 小野数彦

アンリツエンジニアリング 荻一士喜

アビームコンサルティング 橘知志、伊藤崇利、茂呂真里絵

富士通アドバンスエンジニアリング 松浦源樹

